

公表 事業所における自己評価結果

事業所名 東部地域療育センターぽけっと

公表日 2026年 3月 25日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	25		各クラスで声掛けをして、ホールを有効に活用・活動するためにコミュニケーションをとっている。ホール等を使用する時は時間をずらす等工夫している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	25		お休みの人数に合わせて職員を移動して適切な人数にしている。 クラス担任以外の職員が入るなど工夫をしている。 子どもの姿から、非常勤やパートの方、職員同士で人数を調整している。	子どもの姿、職員の状況から足りないと感じることも多い。 子どもの姿から職員配置や日々の保育体制をつくっている。けれど、もう少し大人の目があると良い場面もある。 お子さんの状況に対して1対1のケアが必要な際(場面)では、現在の配置では厳しい場面もある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	25		絵等で分かりやすく工夫している。 給食室が身近に感じられる。 スロープがあったり、バリアフリートイレがあったり適切になっている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	23	2	とりくみにあわせて配置している。 各クラス、子どもの様子に合わせて部屋の環境を整えている。 毎日、床拭き、セラピーマット拭き、加湿し、寒気も適切に行うなど、気持ちよく過ごせるようにしている。 日々の掃除に加え、長期休暇時に大掃除をしている。 保育後、職員も掃除しているが、清掃員さんが入ってくれて、日々の清掃が適切に行われている。	可能であれば砂をもっと取り切れる掃除用具があると良いと思う。ハンディの掃除機等食事やおやつの場面でお子さんに配膳されるテーブルの衛生面が気になっている。 クリップ、豆、粘土などお子さんが口に入れると危険な物が落ちていることが頻繁にある。 ドアが老朽化?で開閉困難だったり、カギがうまくしまらない。 掃除の時間がとれないこともある。外部でも掃除をお願いしているが、もう少し時間確保が必要。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	25		体調などで個別の対応をしている。 体調によっては、和室にて休養できる環境がある。 個別の部屋と言うより、お部屋以外に職員と一緒にいる。 保護者控室を活用。 子どもの様子や状況に応じて過ごしやすい生活空間・環境を作り、提供している。	子どもが自由にする部分では、改良する点がある。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	24	1	毎日、保育の振り返りをしている。 職員会等、振り返りの時間がある。 日頃のケース時間、職員会議等で広く十分に行うことができている。	業務改善に対する意識が低いように感じている。 振り返りが次年に活かされていない時が多い。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	25		保護者と面談している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	24	1	毎週の会議や毎日の終礼などで機会がある。 職員会や面談を行っている。 毎日の保育の振り返り、毎週、会議で日々の保育の共有、月1でクラスでのケースがある。	職員の意見等を把握する機会がそもそもあるのか分からない。 業務改善されず、毎年残業につながっている気がする。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	25		監査を受け、報告がある。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	25		定期的に内部研修や研修の参加をしている。 1年～3年目研修や、法人で講師を招いて講話を聴く機会をいただいたり、学ぶ機会を設定して頂いている。 法人内の研修もたくさん参加させていただいているが、自分の興味のある外部の研修があると受講を勧めて頂けることがありがたい。 外部での研修の案内だけでなく、園内での研修も定期的であり、幅広く学べる機会があり、嬉しい。 研修機会は多く、全体的に意識が高い。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	25			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	25		1人ではなく、クラス担任みんなで話し合っている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	25			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	24	1	しっかり共有している。 個別支援計画をつくり、共有している。計画に沿った。	支援計画を作った終わりではなく、立ち返ったり、振り返りまでできると良いのかなと思う。 クラス担任保育士以外の職員への共有がない。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	24	1		日々の行動観察などのインフォーマルなアセスメントをもっとデータ化や記録して活かせるとうり良いと思う。 標準化されたツールとは?

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	25		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	25	クラスで話し合い、決めている。 今年度ケース検討は行えなかったが、日々関わりのある心理士やハビリスタッフ等に相談できる環境にあり、活かすことができる。 クラス単位や年齢を考慮し、活動を実現させている。 活動に迷った時は、他のクラスなどに相談している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	25		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	25		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	25	バス業務などで一部の職員は確認できないこともあるが、できるだけ確認して支援できるようにしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	25	日々のケース検討の時間に行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	25	行事後の振り返りなどを行っている。 毎回、週案、クラス日誌で振り返っている。 連絡ノート、クラス日誌、事業日誌などを記入している。	
	23	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	25		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	25		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	25		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	25		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	25	園の様子を共有している。 就学先へ引き継ぎ書を書いている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	25		
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	25	保育のため、子どもの発達などの研修がある。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	25	担当を決め、参加できている。	
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	25	地域の保育園の同じ年齢の子どもと交流する機会を作っている。 リズム見学の交流、田植えや稲刈りなど、季節の行事も楽しんでいる。 年長同士で近隣の保育園と泥あそびや稲刈り行事を行った。 今年度、年長と年中以下で交流園を決めて行い、年長は年長同士で積み重ねることができた。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	25	連絡ノートや毎週の親子登園日の時に話している。 おたよりや日々の会話、相談にのっている。 朝、帰りの送迎の際、直接保護者の方と普段の様子を伝え、共有している。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	25	必要な方に案内している。 基本的に月に1回、外部講師、相談診療スタッフなど講師をお願いする等、保護者向けの研修の場をつくっている。		
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	25			
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	25			
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	25	支援計画を確認しながら、日常生活のこと好きなあそびを伝えている。		

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	25	保護者の方から聞き、必要に応じて懇談の機会を設けてきた。 面談は、担任・園長が行っている。 定期的ではないかもしれないが、個別に面談などしている。 日々の登園時や連絡ノートで確認。必要に応じて懇談の場をつくっている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	25	行事の際に兄弟プログラムを用意し、同じ障害のある兄弟さんがつながる場面をつくっている。 きょうだい同士が交流する機会となっており、良い機会になっていると思っている。 行事等、父母会の出し物や兄弟プログラムを設けている。 懇談会、父ちゃん会など交流の場をつくっている。きょうだい支援は行事の時を中心に行っている。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	25	担任・園長が対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	25	園だより、クラスだよりの発行をしている。 園だより等で細やかに活動の様子や次月の予定をお伝え。 写真など活用し、見やすいレイアウト。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	25	個人情報は持ち帰らない。 職員は業務を家庭や外部に必ず持ち込まないようにしている。 個人情報のあるものは鍵のかかる棚に保管。フルネームや写真付きのプリントは溶解処理されている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	25	看護師同士、気になることを話し合い、どのタイミングで言うか、どのように伝えるかなどの配慮をしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	25	年に2回程（わくわくフェスタ、緑ぼけまつり）おまつりを開催している。 地域住民は、行事等へ招待している。 おまつりは地域や卒園児など広く広報し、参加しやすいよう尽力している。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	23	2 職員には周知している。	保護者にはうまく伝わっていないこともある。 誰でも見られるように配置するといひ。 それらのマニュアルを見たことがない。 マニュアルが存在しているかも分からない。 防災訓練は月1回実施できているが、もっと他のシチュエーションでも経験できるとなお良いと思う。 防犯マニュアルの周知はしていないような…。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	25	月に一度、火災・地震が起きた想定での避難訓練を実施している。また、職員一人ひとり役割に応じた動きを実際に行い、終礼で振り返りを行っている。	行っているが園庭に避難することが難しい場合の2次避難先がなく、十分な訓練とは言えない。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	25	保護者からの聞き取りと、常勤の看護師とちやり取りをしている。 4月に進級児も再確認している。 転園の場合、以前の園から職員へ説明して頂く機会を設けている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	25	指示書を年1回提出いただいている。 保護者にアレルギー表の記入をお願いしている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	24	1	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	25		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	25	事故報告、ヒヤリハット報告を当日の終礼で行っている。 終礼において職員全体で共有し、再発防止策について管理職も含み共有している。	ヒヤリハットの書類が煩雑で上がってくる数が少ないように思う。ヒヤリハットを現場から声が上がりがやすくすることによって重大事故につながるヒヤリを職員で共有したい。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	25	虐待防止研修で、改めて学ぶ機会を設けている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	25	身体拘束についての書類を保護者に記入していただいている。		